

福 議 委 号
平成 2 4 年 5 月 2 9 日

福島町議会議長 溝 部 幸 基 様

経済福祉常任委員会
委員長 木 村 隆

所管事務調査報告書の提出について

本委員会は、平成 2 4 年 3 月 9 日平成 2 3 年度福島町議会定例会 3 月会議において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第 1 4 0 条の規定により、下記のとおり報告いたします。

記

調査事件	1 (1 1) 吉岡温泉の運営と利用促進について
調査期間	平成 2 4 年 5 月 1 1 日 (1 日間)
出席委員	委員長 木 村 隆、副委員長 佐 藤 卓 也 委員 平 沼 昌 平、委員 加 藤 雅 行 委員 花 田 勇、委員 平 野 隆 雄
欠席委員	なし
委員外議員	議員 滝 川 明 子
職務のため出席した議員	議長 溝 部 幸 基
出席説明員	副 町 長 竹下 泰弘、住民福祉課長 工藤 泰 住民福祉課長補佐 鎌 田 一志、住民福祉課長補佐 佐藤 和俊
議会事務局職員	議会事務局長 石堂 一志、議会グループ次長 前田 勝広 議会グループ主事 沢田 元気

[委員会意見]

調査事件 1 (1 1) 吉岡温泉の運営と利用促進について

(平成 24 年 5 月 11 日調査)

本調査は、平成 6 年に運営開始された「吉岡温泉」の現状、これまでの利用促進対策及び今後の利用者増加対策等を調査したものであり、その調査結果の主な内容は次のとおりである。

【調査の論点と意見】

1. 今後の利用者増加対策について

① 優待券回数の見直し

平成 23 年度の優待券の利用状況は、配布者の約 50% (延べ利用 16,412 人) に止まっている。温泉の設置目的からも多くの高齢者に数多く利用してもらい取り組みが必要である。そのための対策の一つとして優待回数を増やすことを検討すべきである。

② 家族が楽しんで利用できる施設をめざし

吉岡温泉の料金は、中人 200 円、小人 100 円で子ども 2 人の 4 人家族で利用すると概ね 1,000 円となり、家族が数多く利用しづらい状況にあると考える。中人及び小人の料金を引き下げ、より家族が利用しやすい温泉をめざす対策を検討すべきである。このことが、大人の利用者増にも繋がると考える。

③ 回数券の P R

大人の回数券は 4,000 円 (1 組 12 枚) で、サービスカード (10 回の入浴で 1 回無料) の利用と併せると、1 回当たり 300 円の入浴料金となる。このような回数券の利用方法を積極的に P R すべきである。

2. 施設の管理について

① 施設内の管理

施設内の張り紙 (ポスター) や未利用自動販売機については、利用者に誤解や不快な印象を与えないよう適切に管理すべきである。町の担当職員は施設全体の状況と現状を良く把握するべきである。町内で一番利用者の多

い施設でもあり、またサービス向上を進める観点からも利用者の声を聴く「意見箱」の設置を検討すべきものとする。

② 温泉掛け流し

現在の温泉の湧出量・温度からすると、一部浴槽は温泉掛け流し方式も可能と考えられるので検討すべきものとする。

3. ヒートポンプの導入について

本年度の吉岡温泉改修事業計画の中に「ヒートポンプ導入基本設計等委託（300万円）」が含まれている。当該計画は、二酸化炭素削減効果はもとより行政コストの縮減を大きな目標にしていることから、基本設計等の内容を慎重に判断しその導入を決定すべきものとする。

4. 指定管理者制度の導入検討について

今後の吉岡温泉の適切な管理運営にあたり、他町の指定管理者制度による公営温泉の運営状況等を調査し、当該制度の導入を検討すべきものとする。

5. 吉岡温泉の収支計画の試算について

吉岡温泉の開館以来 19 年間のメンテナンス及び施設改修工事費を除く平均収支額は、16,495 千円の赤字となっている。源泉加温に必要な温水ボイラーの燃料費が多額を占める状況下では一定の赤字は止む得ないものと理解する。収支バランス改善のためにも、今後の収支計画試算を示すべきものとする。

【意見交換の結果】

吉岡温泉は、町民の心身の保養と健康を増進し、活力に満ちた地域社会の振興を目的に運営されている。近年の利用者は減少傾向にあるものの 6 万人台で推移しており、町内の公共施設では最も多く利用されている。町内人口の減少と比例し一定の利用者減は止む得ないものであるが、家族が楽しんで利用できる施設をめざし、施設改修を含めた効率的な管理とサービス向上に繋がる運営方法に期待するものである。